

# ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月15日～9月21日)

2018年10月19日  
在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- 2018年の人間開発指数において、ベラルーシは189か国中53位(9月14日)
- 中国共産党の趙楽際中央政治局常務委員の来訪(9月20日～22日)

## 内政・外交

### 【ルカシェンコ大統領動静】

#### ●中国共産党の趙楽際中央政治局常務委員との会談

9月20日、ルカシェンコ大統領はベラルーシ訪問中の中国共産党の趙楽際中央政治局常務委員兼中央紀律検査委員会書記(同党序列第6位)と会談した。同大統領は、中国共産党の現行の指導部が選出されてから最初の訪問先としてベラルーシが選ばれた事に満足している旨述べた。また同大統領は、最高レベルでの対話が途切れずに続いており、運命共同体を作り上げるための両国の結びつきが会談を重ねるごとに強まっている旨述べた。

趙常務委員は中国とベラルーシの関係に関し、喜びも悲しみも共にすることのできる良き友、互いを誠実に助ける良いパートナー、鉄のように強固な兄弟かつ友人と述べた上で、今次ミンスク訪問の主な目的は、本年6月の上海協力機構(SCO)首脳会合の際に両国首脳が合意した事項を実施するとともに、今後の戦略的な協力と互恵的な関係を調整し、両国間の友好関係を強化することにある旨付言した。

(9月20日付大統領公式サイト、国営ベルタ通信)

### 【内政】

#### ●北欧のフリージャーナリストがジャーナリストに対する圧力を止めるよう呼びかけ

ベラルーシ・ジャーナリスト協会によれば、9月16日、スウェーデンのマルメでフリージャーナリストの大会「Nordic Freelance 2018」が開催され、ベラルーシ当局に対してフリージャーナリストに対す

る圧力を止めるよう求める声明が採択された。同声明によれば、ベラルーシでは未登録の外国メディアに協力しているフリージャーナリストに対し、2017年に69回、2018年に既に76回の罰金刑が科されており、報道の自由やジャーナリスト個々人の生活を脅かすものとなっていることが指摘されている。同声明には、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー、デンマーク各国のジャーナリストが署名した。

(9月18日付ベラパン通信)

#### ●ダプキュナス外務次官:ベラルーシ人民共和国はベラルーシの歴史の一部

9月20日、外務省ダプキュナス次官は、1918年に短期間存在したベラルーシ人民共和国の独立が宣言された建物への銘板の設置を巡る状況に関するベラパン通信からの質問に対し、自分(ダプキュナス次官)は答える立場になくあくまで一市民としてであるがと断った上で、ベラルーシ人民共和国は、ページを削除したりでっち上げたりしてはならない歴史であり、自分の国の歴史であると述べた。

8月30日、未公認野党「ベラルーシ社会民主党(グラマダ)」はミンスク市執行委員会(市役所)に対し、銘板の設置を急ぐよう求める書簡を提出した。数日後、ミンスク市から同党に対し、複数の市民や団体から銘板設置に反対する意見も寄せられているものの、本件については検討中である旨の返答があった。

(9月20日付ベラパン通信)

## ●出入国管理業務の一部が税関に移行

9月20日、国家税関委員会セニコ委員長は、国境を越える人の書類の確認等の現在は国家国境委員会が行っている業務の一部が、2019年1月1日からブレスト、ヴィテプスク、ミンスク各州の一部の税関で税関職員が行うことになり、そのための決定が大統領によって下されている旨述べた。  
(9月20日付国営ベルタ通信)

## ●アムネスティ・インターナショナルによる人権問題に関する指摘

9月21日、国際人権NGO「アムネスティ・インターナショナル」は、ベラルーシにおいて人権に係る問題が依然として残っていると、同国の当局に対して状況改善の推奨事項を発表。  
・死刑廃止に関する前進という肯定的歩みにも拘わらず、死刑宣告と囚人の秘密裏による処刑が行われていた。  
・出版マスコミ、ラジオ・TV局の大部分が政府による直接の管理下で営業しており、さらに当局はインターネットで活動するマスコミに対する管理を強化する一連の措置を取った  
・秘密監視の実行について規定する現行法により、独立した司法機関による然るべき制裁や監視がないまま、適法性が確認されない広範な身辺調査が行われている  
(9月21日付ベラパン通信)

## 【外交】

### ●科学技術分野での協力に関するベラルーシ・ウクライナ両国政府間委員会会合の開催

9月18日、ミンスクで科学技術分野での協力に関するベラルーシ・ウクライナ両国政府間委員会の会合が開催され、ベラルーシ側から国家科学技術委員会シチェルバコフ副委員長、ウクライナ側から教育科学省ストリフ次官が出席した。会合では情報通信技術、光電子工学、ナノテクノロジー、医療・製薬、農業、機械等の分野での両国の連携活性化につき話し合われた。会合後、議定書と2020年までの科学技術・イノベーション協力の実施プログラムが署名された。  
(9月18日付ベラパン通信)

## ●中国共産党の趙楽際中央政治局常務委員の来訪

9月20日から22日かけ、中国共産党の趙楽際中央政治局常務委員兼中央紀律検査委員会書記(同党序列第6位)がベラルーシを訪問した。

### ルマス首相との会談

20日、ルマス首相との会談が行われた。同首相は、2019年がベラルーシ・中国両国における教育年となる旨発表。同首相はベラルーシ政府として中国との経済関係に多大の関心を払っている旨述べ、鉄道輸送が海上輸送と競争できるような条件を両国が共同で整備しなければならない旨強調するとともに、中国からの融資ライン獲得に関し、融資は互惠かつ市場の現状を踏まえて行われなければならない旨付言。

### 大統領府コチャノヴァ長官との会談

同日、大統領府コチャノヴァ長官との会談が行われた。同長官は、中国が自国の国益を促進できるよう、ベラルーシはユーラシア西部における北京の地域代表部とならなければならないと発言。また同長官は、ベラルーシが強国を含む他国の意見に構うことなく、中国との自発的かつ依存しない関係を構築していると付言。

### ミヤスニコヴィチ上院議長との会談

21日、共和国院(上院)ミヤスニコヴィチ議長との会談が行われた。同議長は、中国の国営企業や民間企業をベラルーシとの経済分野でのさらに広範な協力へと招きたい旨発言。また同議長は、国際水準のサッカースタジアム及びプール建設のための支援を中国側に感謝するとともに、両施設が2020年までに使用できるよう、手続きを急ぎ、作業計画を見直すことを提案。

### その他

同日、趙常務委員の臨席の下、ベラルーシ国立図書館で、習近平国家主席の著作を含む約1,200冊の図書が贈呈式が行われた。ベラルーシ国立図書館モトウリスキー館長は中国側に対して図書の寄贈に感謝するとともに、現在同図書館には1万冊以上の中国の書籍が所蔵されている旨述べた。また趙常務委員一行はベラルーシ滞在中に、大祖国戦争(第二次世界大戦)歴史博物館、軍事

テーマパーク「スターリンライン」、中国・ベラルーシ産業特区「巨石」を視察した。

(9月19日～22日付国営ベルタ通信)

## 経済

### 【国内経済】

#### ●国家統制委員会と世界銀行がインフラ整備プロジェクトについて議論

9月17日～21日にかけて、世界銀行の専門家グループがベラルーシを訪問した。同グループは、給排水システム及び一般固形ごみ処理の発達と近代化を支援する新プロジェクト「公共サービスの効率と質の改善」を準備する目的で来訪した。

19日、国家統制委員会と世界銀行それぞれの代表者が会談し、世界銀行の支援で実施中の「給排水システムの発展」プロジェクトの実施状況につき話し合われた。国家統制委員会クルルィポ副委員長は、給排水サービス提供の品質向上を含め、世界銀行とあらゆる分野で協力することが重要である旨述べた。同委員会は同プロジェクト実施に係る資金活用の実効性について検証し、個々の違反や至らない点を洗い出し、それらを解消するための勧告事項をまとめた。世界銀行ベラルーシ事務所のクレマー所長は、「国家統制委員会との協力を強化し、さらにそれを開かれたものにしていくことは理に適っている。我々の目的は同じであり、それはプロジェクトの円滑な実施のための最適な解決法の模索であり、効果的・合理的な資金の活用である」と述べ、同委員会によって明らかにされた世界銀行のプロジェクト実施における違反の事実を周知するよう提案した。

(9月19日付ベラパン通信)

#### ●電子部品メーカー「SK Hynix」がミンスクに開発拠点を開設

9月19日、「ハイテクパーク(情報技術・スタートアップ特区)」に入居している韓国企業「SK Hynix」は、ソフトウェア開発のための学術研究センターをミンスクに開設した。同社は世界的に急成長しているICチップやメモリのメーカーで、同社の製品はアップル、LG、ヒューレット・パッカード、デル、アスース等の製品で使われている。

(9月19日付ベラパン通信)

#### ●産業省第一次官:民営化よりも合弁事業

9月21日、産業省スヴィデルスキー第一次官は記者団に対し、同省傘下企業による輸出が好調であることを受けて国営企業の価値が高まっていることから、民営化よりも合弁事業設立を考えるべきである旨述べた。同第一次官は、国営機械メーカーの株式売却の計画はない旨付言した。

また同第一次官は外国からの投資の誘致に向けた取り組みに関する質問に答え、現在「ミンスク自動車工場(MAZ)」と中国企業「Weichai Power」がエンジン生産に向けたプロジェクトを実施中であることや、ベラルーシ・中国合弁乗用車メーカー「ベルジ」向けのエンジン、ラジエータ、シート等の自動車部品メーカーが登録され、それらの企業の支配株を中国側が保有していること等も述べた。

(9月21日付ベラパン通信)

### 【対外経済】

#### ●石油公社副総裁:石油製品積み出しはバルトの方が料金面で有利

9月20日、「ベラルーシ石油公社」グリブ副総裁は、ベラルーシで精製した石油製品の積み出しに当たっては、ロシア側からロシアの港湾を使うようにという提案を受けているものの、バルト海の港湾を利用した方が料金の面で有利であるとした上で、同公社としてロシア経由での石油製品積み出しを制限しているわけではなく、顧客に積み出し港を選んでもらうようにしているだけである旨述べた。

(9月20日付国営ベルタ通信)

### 【統計・その他】

#### ●ベラルーシの人間開発指数:189か国中53位

9月14日、国連開発計画(UNDP)は最新の人間開発指数(HDI = Human Development Index)を発表。ベラルーシは189か国中53位で、人間開発が極めて高いレベルにある59か国入り。

ベラルーシの近隣諸国で同グループに入っている国は、エストニア(30位)、ポーランド(33位)、リトアニア(35位)、ラトビア(41位)、ロシア(49位)。

旧ソ連圏では、ジョージア(70位)、アゼルバイ

ジャン(80位), アルメニア(83位), ウクライナ(88位), ウズベキスタン(105位), トルクメニスタン(105位)が人間開発が高いレベルにある国のグループに入り, モルドバ(112位)及びタジキスタン(127位)は, 人間開発が中レベルにある国に含められた。

同指数の上位3か国はノルウェー, スイス, オーストラリアで, 日本は19位。HDIは, 生活水準, 識字率, 教育, 平均寿命などを人間開発の主要指標として国別に比較し, 測定するために毎年調査されている。

(9月14日付 UNDP 公式サイト, 16日付ベラパン通信)

(了)